

■明石元二郎 ロシア革命派支援諜報活動が「明石工作」として伝説化。朝鮮では弾圧し、台湾では近代化指導者に。

あかしもとじろう

禁門の変・1864= 筑前国福岡天神路町で、藩士明石助九郎貞儀の次男に生まれる。母は秀子。3つ上に兄直。

薩長同盟・1866= 2歳：父が切腹自決。

明治維新・1868= 4歳：

名門の家柄の実家(浜の町)に戻って内職する母から、厳しく教育され、頭脳明晰ながら、並外れた腕白と度胸を持つようになり、

学問のすすめ1872= 8歳：大名小学校に入学。渡辺県令の前で書道を披露した際にもその度胸を感心され、

明治6年政変 1873= 9歳：

成績優秀。首席を通して、

三つの内乱・1876=12歳：卒業。母の願い聞いてくれた父の縁者の支援で、上京。同郷の実業家宅に寄寓し、安井息軒の塾で学ぶ。

西南戦争・1877=13歳：

官費で学べるといふことで、陸軍幼年学校に入学。
悪戯ぶりに拍車がかかるも、成績は常に上位を占めて、

明治14年政変1881=17歳：陸軍士官学校に入学、校内の稲荷の添え物を食べたり、朝礼点呼の逸話など、相変わらず腕白、

新体詩抄・1882=18歳：

岩倉具視没・1883=19歳：卒業し、陸軍歩兵少尉、歩兵第12連隊勤務(丸亀)を経て、

秩父事件・1884=20歳：歩兵第18連隊勤務(豊橋)。奇行と純朴さで親しまれる存在になって行く。

帝国大学始・1886=22歳：陸軍戸山学校教官。

国民之友始・1887=23歳：

歩兵中尉。陸軍大学校入学(第5期・歩兵科)。常に成績優秀であったが、身なりを飾らず、

兄玉校長から軍政学・編成学を、メッケルから戦術論を学び、戦術論と数学を得意として、

帝国憲法発布1889=25歳：

卒業。歩兵第5連隊(青森)で、はじめての寒冷地体験後、

帝国議會始・1890=26歳：

参謀本部に出仕、

大津事件・1891=27歳：

測量・実地調査などに従事。黒田藩邸一角に母を呼び寄せ借屋住まい、飼ひ猫一匹。歩兵大尉。

大本教・1892=28歳：

母が連れてきた同郷の福岡藩士の娘国子と結婚。

日清戦争始・1894=30歳：

川上参謀次長に才能を認められ、先輩大井成元大尉の世話で、

日清戦争終・1895=31歳：

帰国。近衛師団参謀として初出征するも、戦闘終結して、師団に従い、抵抗激しい台湾征伐に転戦、

暑さのなか部下に配慮する師団長北白川能久親王の前で、上半身裸になってかえって親しまれ、少佐に昇進

して台南に入った際、能久親王がマラリアのために死去。衝撃を受けて、帰国。

白馬会・1896=32歳：

参謀本部へ戻ると、'身なりは悪いが切れる男'が定評となり、川上参謀次長から秘密の業務託され、2度目の

台湾入りで能久親王死去の地で感無量後、

八幡製鉄始・1897=33歳：

仏領インドシナ周りを巡視、「越南日記」記録して、帰国。海軍大学校教官兼務となり、海軍とも交流。

子規句歌革新1898=34歳：

川上参謀総長の命令でフィリピン事情を探る。

Bushidou・1899=35歳：

次女が誕生。川上参謀総長が死去して、また衝撃。

ピアノ国産化・1900=36歳：

中佐。北清事変後のロシアへの対応ため、清国に派遣され動向偵察、その開戦準備を確信して、帰国。

田中正造直訴1901=37歳：

語学力を買われ、駐仏公使館付武官。フランス語習得に励み、初めてお洒落に気を使う。

教科書疑獄・1902=38歳：

駐露公使館付武官に転じ、すでに田中義一陸軍武官補佐官が進めていた情報収集や革命派との関係構築を引き継ぎ、宇都宮中佐からロシア事情を教わる。語学学習しながら、植民地経営も学ぶ。

日比谷公園・1903=39歳：

歩兵大佐。

日露戦争始・1904=40歳：

*日露戦争が起こると、特別に設置された参謀本部直轄のヨーロッパ駐在参謀を命じられ、実質的に、ヨー

ロッパにおける陸軍の最高責任者となるが、ストックホルムへ移動するも、満足な活動できず、願い出て、

駐露公使館付陸軍武官残務取扱いとなり、無謀ともいえる方法で、フィンランド憲法党党首カストレンに面

談申し込み、その右腕シリヤクスの信頼を得、以後、欧州各地に亡命して革命グループと接触、いわゆる

「明石工作」を展開し、シリヤクスが議長つとめるバリ連合会議が開催され、

日露戦争終・1905=41歳：

ジュネーブで、ガボン神父召集の第2回連合会議開催されるも、戦争終結するや帰国命、シリヤクスに絵を

贈られて別離。山県有朋参謀長宅に報告に行き、熱中するあまり失禁するなど、ドジぶりは変わらず、

満鉄発足・1906=42歳：

長男が誕生。児玉源太郎が死去。駐独公使館付陸軍武官となるも、ロシアの新聞に「明石工作」を暴露され

て、ドイツから危険視され、活動に支障。万国赤十字会議(ジュネーブ)に出席し、大役を果たし、

韓国反日暴動1907=43歳：

船中で妻の死去を知り悲しみのなか、帰国。朝鮮での暴動危機に対応に悩む、寺内正毅陸相に抜擢されて

、陸軍少将に昇進し、朝鮮の警察権執行機関たる第14憲兵隊長となり、京城に赴く。

アヲテ創刊・1908=44歳：

再婚。韓国駐劄軍参謀長を兼務して、韓国治安維持の全権を握り、政治結社と関係を深める。

伊藤博文暗殺1909=45歳：

心身ともに疲労し、禪に帰依。韓国義兵のリーダー許薦が逮捕され、兼務を解かれるが、

韓国併合・1910=46歳：

*武力によって韓国が併合されると、朝鮮総督兼務となった寺内正毅陸相の右腕たる憲兵隊司令官になり、

韓国統監府警務総長を兼務して全権を掌握、朝鮮の反日抵抗運動を徹底的に弾圧する一方、衛生・道路整備

・森林保護などにも、精力的に取り組む。

明治天皇没・1912=48歳：

陸軍中将となり、

大正政変・1913=49歳：

長女が結婚。この前後、帰国の都度、鎌倉の積宗演のもとに参禅し、達磨絵を描き始める。

第一次大戦始1914=50歳：

帰国。功で、参謀次長に任命され、第一次大戦が始まると、青島占領と対華21ヶ条要求を積極的に推進、

21ヶ条要求・1915=51歳：

第6師団長(熊本)に左遷されたと思っていたところ、勲一等瑞宝章・勲一等旭日大綬章が授与され、

民本主義・1916=52歳：

第一次大戦についての連合・同盟批判と日本の軍備についての論文。久留米福岡地方の大演習に参加後、

本格政党内閣1918=54歳：

*寺内の抜擢で、(大将でなく爵位も無い)異例の台湾総督(第7代)に就任し、陸軍大将にまで昇進。安東前総

督から民政長官つとめる下村宏の助言を得て、裁判三審制度復活、森林令発布、教育制度改革、全島巡視の

ほか、八田與一技師らの信念をバックアップして、巨大事業となる嘉南大(烏山頭ダム)、日月潭水力発電

所、さらに難題だった台中海岸線鉄道建設に目途つけるなど、短期間に膨大な実績を上げるも、

ベル仁条約・1919=55歳：

次女が結婚するも、長女が死去。*その激務が災いし、台湾軍司令官も兼任するが、東部巡視後、インフル

エンザから肺炎併発し一時危篤、男爵に叙された後、福岡に戻り、没した。遺言で台湾に埋葬される。